

MEJIRO UNIVERSITY ECO CAMPUS REPORT

エコキャンパスレポート 2017





この夏は本当に暑い夏でした。猛暑日も大変多く、40℃超のニュースも何度か聞きました。天気予報では、最初の頃「適切に冷房を」と言っていたのが、次第に「ためらわずに冷房を」と変わり、「命の危険に関わる」暑さという表現も使われるほどでした。熱中症での搬送も例年になく多かったようです。こうなると、省エネや節電よりもまず命の安全をとということになります。一方こんな時だからこそ、一層の省エネや節電が必要だとも言えます。たとえば、誰もいないのに明かりがつき、空調が入ったままの教室を時々見かけます。皆がもっていない精神を発揮すれば、こうしたことを防ぐのはそれほど難しいことではありません。授業で目白大学のよさを聞いたとき、暑い坂道を上がってきて校門を入ると、緑が多く涼しいことを挙げた学生がたくさんいました。エコキャンパスの名に相応しい緑の保全にご尽力いただいている皆さんのおかげです。改めて感謝いたします。

目白大学学長 沢崎 達夫

LEARNING & ACTIVITIES

環境学習とエコ活動

皆既月食を観測

2018年1月31日、人間学部児童教育学科で「児童と自然・科学」を履修する学生たちが、さいたま岩槻キャンパスにて、皆既月食の観測を行いました。当日は、静岡科学館で科学コミュニケーターとして活躍されている代島慶一氏をゲストに迎え、皆既月食や天体に関する講義を受けたあと、屋外に出て、用意した天体望遠鏡を使って、時間とともに進む皆既月食の様子を観測しました。寒さの厳しい中、次第に暗くなっていき、皆既月食になって鮮やかに赤く輝く月を見ながら、天体ショーを楽しみました。この科目は自然観察や科学技術と産業・社会との関わりについて体験を通して学ぶことを目的としていますが、この日はその締めくくりの学外授業として、自ら自然体験をする中で、子どもたちの学びをどう考えていくかを捉え直す良い機会となりました。



皆既月食観測

稲刈り・芋掘り体験

2017年10月14日、人間学部子ども学科で「子どもと自然Ⅱ・Ⅲ」を履修する学生たちが、さいたま岩槻キャンパスにて、稲刈り・芋掘りを行いました。毎年5月に植え付けを行い、7～9月の草むしりを経ての収穫になります。1年生は飼育栽培委員の先輩から鎌の使い方のレクチャーを受け、雨の合間をぬって稲刈りを無事に実施することができました。今年は天候不順が続いたこともあり、稲・芋ともに収穫できるか心配していましたが、管理する農家さんの協力のもと多くの稲・芋を収穫することができました。芋の葉っぱと蔓が生い茂る畑では、学生たちが足を取られながらも、芋を掘り当てようと真剣に取り組む姿が見られました。大きな芋を掘り起こすたびに歓声が上がリ、収穫の喜びをそれぞれ味わうことができたようでした。



芋掘り体験

筍採りと竹林整備

2017年4月19日と25日の2日間、さいたま岩槻キャンパスにてボランティア学生たちが、「筍採り」と枯れ竹の伐採を兼ねた「竹林整備」を行いました。筍は放置しておくことで成長した竹が生い茂り、日光が当たらず竹林が荒れてしまうため、適度に採ることできれいな竹林を維持することができます。また、通り道を塞いでいた枯れ竹も伐採して竹炭に加工することができます。両日併せて19名の学生たちが参加しましたが、筍を掘るのは初めてという学生も多かったようです。最初は見つけることに苦労していましたが、徐々に「あった!」「こっちこっち!」など声があがり、楽しく作業をしていました。キャンパス内にある竹林の竹は、8月に本学地域連携・研究推進センター岩槻分室が開催するイベント「地域交流流しそうめん」のコースに利用され、また伐採した竹で作った竹炭も、イベント参加者に配布されて大変好評でした。



筍採り体験

樹木プレート設置

2017年5月4日、みどりの日、さいたま岩槻キャンパスにて、エコキャンパス活動の一環として、有志の学生たちがキャンパス内の15種類、22本の樹木にネームプレートを取り付けました。同キャンパスではこれまで樹木プレートの設置が行われてこなかったため、今回は学園のシンボルツリーである桐(キリ)、岩槻という地名の由来となった槻(ケヤキ)、そしてひととき大きなクスノキやメタセコイヤなど、キャンパス内でとりわけ目を引く樹木を中心にプレートを設置しました。幹の太い樹や背の高い樹にはスプリングを巻きつけ、低い樹にはポールを立てて取り付けました。プレートには樹木の名前がカタカナ・学名・漢字で記載されていて、QRコードから花の写真など詳しい情報を得ることもできます。



樹木プレート設置

目白大学の環境対策

省エネルギー対策

- ソーラーシステム
- 集中制御空調システム
- 高効率空調システム
- ヒートポンプ式給湯器
- 人感センサー

- 省エネ照明 (LED、インバーター式蛍光灯)
- 水蓄熱システム
- 風力発電
- 目白学園電気予報

緑化対策

- 700種類以上の樹木管理
- 屋上緑化
- 緑のカーテン
- 透水性インターロッキング
- ピオトープ

省資源対策

- 中水道システム
- 空き缶回収装置
- 再生紙の利用
- 天然石鹸の使用

その他の対策

- ごみの分別
- UVカット窓ガラス
- グラウンドの砂埃防止
- 喫煙所以外の全面禁煙



太陽光発電



高効率空調機



水蓄熱システム



屋上緑化



中水道システム

ECOアクションは、学生自らが企画し実施する環境プロジェクト。「環境問題という地球規模の問題に対して、私たちはどんなことができるでしょうか？地球のため、未来のため、どんな小さな取り組みでも構いません。足元から、今日から、なにか行動(アクション)を起こしましょう!」との呼びかけに対して、7回目となる2017年度は7件の意欲的な応募があり、その環境マインドとアクション性が評価され採択されました。桐和祭(学園祭)では、実施された企画の成果報告(中間報告)のパネル展示が行われました。



川ごみ清掃



スノーボトル製作



ブルーサンタ



エシカルコーナー

2017年度 採択・実施企画一覧

1. ペットボトルごみのない川へ～river savers～
(児童教育学科 石田ゼミ)
2. リサイクルスノーボトル
(子ども学科 西山ゼミ)
3. 無駄な電力をひかえましょう
(児童教育学科 山本ゼミ)
4. 江ノ島ダストアート
(児童教育学科 新聞委員)
5. 未来につながるエシカル消費
(地域社会学科 飛田ゼミ)
6. 絶滅危惧種カワノギクの保全活動
(社会情報学科 藤巻ゼミ)
7. BLUE SANTA～海と日本プロジェクト～
(メディア表現学科 河合ゼミ)

目白大学から大学院・短大・高校・中学校まで目白学園の学生・生徒一人ひとりのエコ意識向上をめざす、恒例の全学参加型コンテストです。2017年度はキャンパスをエコ王国に見立て、王様を悩ませている「エレベーター」<ゴミ分別><レジ袋>の3大問題を解決するための楽しい貼り紙アイデアを募集しました。タイトルは「あなたの絵と言葉でキングを救え!エコトパフェスティバル」。イケメンのエコキングによる呼びかけもあったせいか、応募総数は例年を大きく上回る229点に。その中から児童教育学科の岩上さん、社会情報学科の小林さん、メディア表現学科の秋山さんの作品が、3部門それぞれの最優秀賞に選ばれました。



告知ポスターも話題に



学園祭での発表会

2017年12月7日～9日、東京ビッグサイトで開催された「エコプロ2017～環境とエネルギーの未来展」に目白大学が出展しました。「エコプロ」展は日本最大級の環境展で、さまざまな業種の企業や、自治体、NPO/NGO、大学・研究機関など、約600社・団体が出展し、環境に関わるビジネスパーソンから、専門家、生活者、子どもたちまで、3日間で16万人以上が来場しました。5回目の出展となる本学は、「全学的エコキャンパスづくりへの提案」をスローガンに、児童教育学科の3団体、子ども学科、メディア表現学科、地域社会学科、社会情報学科、および学校法人目白学園「地球環境の保全および低炭素社会への貢献」推進委員会が出展しました。このうち児童教育学科、メディア表現学科、および地域社会学科から併せて過去最多の45名の学生が参加しました。学生たちはゼミや授業におけるエコ活動や環境学習について、パネル展示やチラシ、クイズなどを通して紹介したほか、リサイクルアートによる体験型企画も子どもたちに好評でした。



エコプロ展

2017年10月14日、戸田市上戸田地域交流センターで、社会学部地域社会学科の飛田ゼミと戸田市環境課との共催による講演会「私たちの選択が未来を変える～幸せをもたらすエシカルな暮らしのすすめ～」が開催されました。本講演会では、一般社団法人エシカル協会代表理事の末吉里花氏よりエシカル消費やエシカルライフについての基調講演、ついで代表学生4名による研究発表がありました。そのあと飛田教授の司会により、末吉氏と学生4名のパネルトークが行われ、さらにフロアの参加者も巻き込んで議論を深めました。講演会会場前のロビーでは、エシカル消費をテーマにした学生たちによる研究成果のパネルやエシカル商品の見本を展示する「エシカルコーナー」が開設され、アンケートやクイズなどを通して、来場者の方々にエシカル消費の考え方や実践例を紹介し、「分かりやすい」とのお褒めの言葉をいただきました。



戸田市とコラボ

COLUMN [コラム]

ビオトープ、ありがとう

2018年1月、2020年竣工予定の新校舎建設のため、4号館前のビオトープが解体されました。ビオトープ(Biotope)とは、生命を表す「バイオ」と場所を表す「トープ」とからなるドイツ語の造語で、さまざまな生物が息づく生態系が保たれた空間のこと。本学のビオトープは、多年にわたって大切に保護されてきたドイツウヒ、キリ、カツラ、コブシ、クロガネモチなどの樹木に囲まれたスペースに、2011年9月、新たに掘削して作った池と滝のある既存の池をつなぎ、そこに多種多様な水辺の草木を植栽して造成されました。ビオトープエリアでは小ブタ、クジャク、ウコッケイなども飼育され、ときおり動物たちの牧歌的な鳴き声が聞こえる中、池の周りでは、水辺の草木、草むらの虫たち(トンボ、チョウ、バッタなど)や水中の生物(メダカ、フナ、カエルなど)を観察し、水辺の環境・生態系や自然との共生について、体験的に親しみながら学ぶことができました。惜しまれながらも樹木は伐採され、池は埋め立てられましたが、ビオトープの想い出は語り継がれることでしょう。ビオトープ、ありがとう。

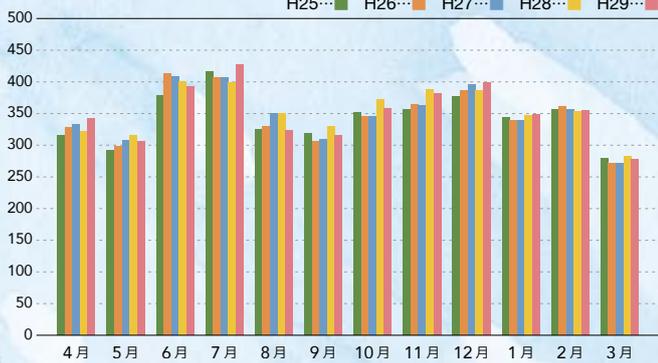


ビオトープ

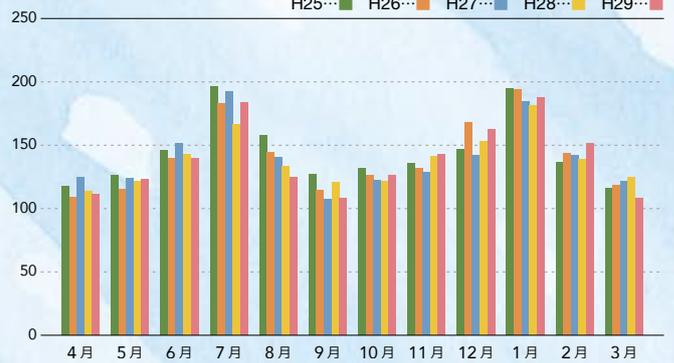
環境負荷データ

電気使用量 (単位:千kwh)

新宿キャンパス

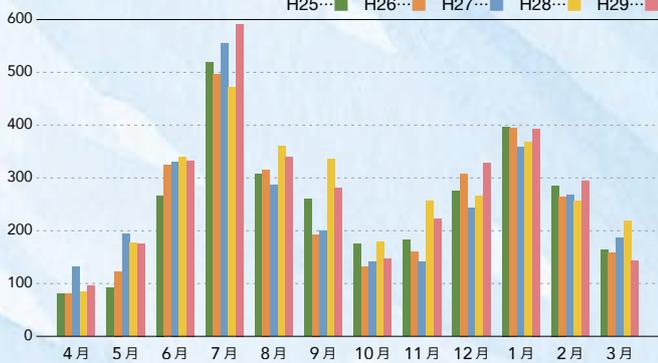


さいたま岩槻キャンパス

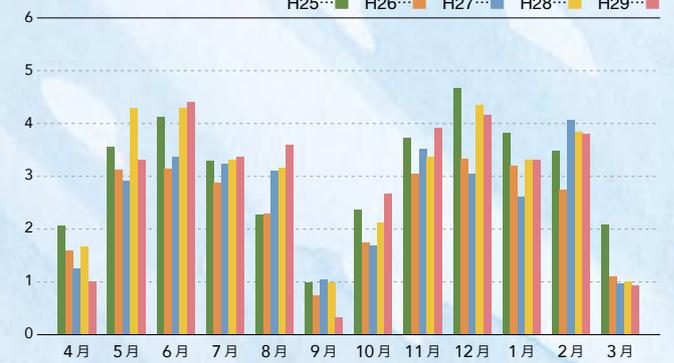


ガス使用量 (単位:百m³)

新宿キャンパス

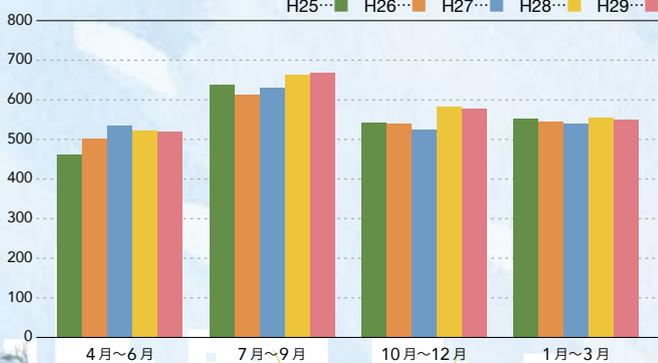


さいたま岩槻キャンパス

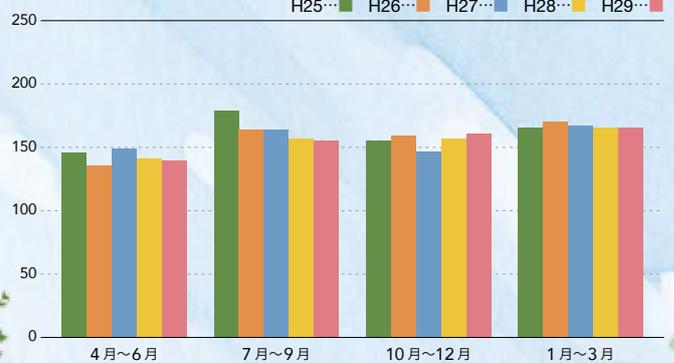


CO2 排出量 (単位:t)

新宿キャンパス



さいたま岩槻キャンパス



■新宿キャンパス 東京都新宿区中落合4-31-1 TEL:03-5996-3117
 ■さいたま岩槻キャンパス 埼玉県さいたま市岩槻区浮谷320 TEL:048-797-2222
<http://www.mejiro.ac.jp>

設置者	学校法人目白学園(尾崎春樹理事長)		
■目白大学	設立年	平成6年 目白大学設置	
	学生数	5,795名(平成30年5月1日現在)	
	設置学部・学科	人間学部 心理カウンセリング学科/人間福祉学科/子ども学科/児童教育学科 社会学部 社会情報学科/メディア表現学科/地域社会学科 メディア学部 メディア学科(平成30年4月開設) 経営学部 経営学科 外国語学部 英米語学科/中国語学科/韓国語学科/日本語・日本語教育学科 保健医療学部 理学療法学科/作業療法学科/言語聴覚学科 看護学部 看護学科	
	大学院	国際交流研究科/心理学研究科/経営学研究科/生涯福祉研究科/言語文化研究科 看護学研究科/リハビリテーション学研究科	
	■目白大学短期大学部	設立年	昭和38年 目白学園女子短期大学設置(平成12年 目白大学短期大学部に名称変更・改組)
		学生数	440名(平成30年5月1日現在)
		設置学科	生活科学科/製菓学科/ビジネス社会学科

